

最優秀賞

子育てに家事にと必死に生きてきた年月は
ブランクなのでしょわか
これほどまでに

多くを学んだ濃厚な時間はなかったでしょう
時間をくれた方々に感謝し
パワーアップしたあなたを見せればいい

武田 梨沙 (山形市)

審査員からのコメント

女性の仕事と言われ続けた子育て
と家事、しかし今や性別役割を越
え、男女協力でのものになってき
ています。大切な時間を共に過
していければ最高ですね。一番身
近な家庭から男女共同参画を。

塩野優子 審査員

優秀賞

家事育児指示待ちしていたら勿体ない
一度しかない経験なのに任せきりなんて
勿体ない

そんな考えの男性が増えたらいいな

吉田 日向子 (山形大学)

優秀賞

一人ひとりが輝ける社会になるために
自分にできること

自分にはできないこと

それを見つけて一生懸命

頑張ればいいんだよ

吉水 実夢 (東北文科大学)

入選

認め合うって難しい。
分かり合おうって難しい。
でも、寄り添うことなら、
僕にもできる。

五十嵐 清太 (山形大学)

入選

「イクメンとか、主夫とか、
そんな言葉もあったなあ」と
いつも通り、わが子をあやすお父さんたち。
そんな時代もきつとくるから

佐藤 胤美 (山形大学)

入選

「男だから」「女だから」が仕事を任せられる理由でなく、
「あなただから」が仕事を任せられる理由になる社会へ。

松田 直 (山形大学)

入選

カッコいい女の子もよくない？
かわいい男の子もよくない？
自分が一番好きな姿でいるのが
一番素敵じゃない？

渡部 歩乃佳 (東北文科大学)

入選

なぜ地球上から戦争がなくなるんだらう
女や子供は泣き叫び逃げまどう
今こそ男女が協力して
平和で穏やかな社会を構築したい

齋藤 紀美 (山形市)

入賞作品総評

井上 榮子 審査員代表 (山形市男女共同参画審議会会長 元山形大学男女共同参画推進室准教授)

今年度の作品募集は一行詩部門のみとなり、応募は大学・一般の部で151作品、中学・高校の部で756作品
でした。多数の作品をお寄せいただいたことに感謝し、入賞者の皆様にお祝いを申し上げます。新しい生活
様式を含めて新型コロナの影響が引き続き見られますが、多様性の尊重や性別役割の見直しなどに関する良
い作品が多かったと思います。また、山形市内小中学校において男女混合名簿や女子制服のストラップが導
入されたことから、この動きを機敏に取り上げた作品も見事でした。何より平和と人権尊重が男女共同参画
社会の礎であり、今年は「男女が協力して平和な社会を構築したい」という作品をお寄せいただきました。
その作品に込められた思いを、皆様と共有させていただきたいと思ひます。

今年度から第4次山形市男女共同参画計画「いきいき山形男女共同参画プラン」がスタートしており、作
品募集などをとおして意識をさらに高めていく必要があります。市民の皆様のご協力により、20年もの伝統
に新しい風を吹き込み、本事業が今後も発展していくことを願っております。

佐藤 孝弘 山形市長

山形市では、平成10年9月に県内初、全国で14番目となる「男女共同参画都市宣言」を行い、平成25年3
月には男女共同参画推進条例を制定しております。令和4年2月に策定した第4次山形市男女共同参画計画
「いきいき山形男女共同参画プラン」をスタートさせ、男女が様々な分野にともに参画し、その個性と能力
を十分に発揮できる「男女共同参画のまち山形」の実現に向け、様々な事業に取り組んでおります。

男女共同参画に関する作品募集は、その気運を高めるための取り組みの一環であり、平成13年度から実施
し21回目の開催となります。数多くの作品を幅広い年代の方からお寄せいただき、ご応募いただいた皆様方、
また学校関係者の方々に、心より感謝を申し上げます。

このたびの入賞作品は、性別にとらわれずに個性や能力を発揮したいという願い、社会慣行に対する意識
や気付き、女子生徒の制服のストラップ導入や、性の多様性を認め合える社会づくりへの想いなど、表現さ
れる内容やテーマが多岐にわたっております。いずれの作品も、山形市における男女共同参画に対する意識
の高まりを実感するものであり、大変嬉しく感じております。

こうした取り組みを通して、市民の皆様の「男女共同参画」に対する理解が深まり、性別にとらわれず、
誰もが個性と能力を発揮できる「男女共同参画のまち山形」の実現に着実に繋がっていくことを願っており
ます。

審査員一覧 (順不同、敬称略)

| | | |
|----------------------|-------------------|-------|
| 山形市男女共同参画審議会会長 | 元山形大学男女共同参画推進室准教授 | 井上 榮子 |
| 山形市男女共同参画審議会委員 | 山形市立西小学校校長 | 武田 喜好 |
| 山形市男女共同参画審議会委員 | 山形市女性団体連絡協議会 | 塩野 優子 |
| 山形市企画調整部長 | | 畑口 和久 |
| 山形市企画調整部男女共同参画センター所長 | | 高橋 真枝 |

令和4年度
男女共同参画都市宣言事業

男女共同参画に関する一行詩

入賞作品集

男女共同参画都市宣言

社会のあらゆる場で 男女の人権は 互いに尊重されることが必要です

私たち山形市民は 真のパートナーシップの実現を目指し

さまざまな分野に 男女が平等に参画できる社会を創ります

次代を担う子どもたちに とともに信頼し支え合う大切さを伝え

市民一人ひとりが 力強く歩み続けることを誓い

ここに 山形市は 男女共同参画都市の宣言をします

平成10年9月 山形市



最優秀賞

あ、こんな考えもあるのか！
あつなるほど。
あつ、すごい。
いろんな人、いろんな考えとの出会い。
同じ”人”なのにここまで広がる多様性。
多様性が生み出す感動は、
きっと男女共同参画社会を創り上げる。

伊藤 真央 (山形東高・1年)



優秀賞

皆一人の人間だ
「男だから」「女だから」
そんなの関係無い！
私たちの可能性は、無限大。
「自分らしく」生きていこう。

菊池 凜央 (第五中・3年)



優秀賞

私の家では男女平等のニュースを見る度
手を止めてみんなで話し合う。
自分の意見を伝えること、話し合える
環境があることに感謝をしたい。

根田 陽花 (山形商業高・3年)



優秀賞

明るい未来への扉は
私達にしか開けることができない
その扉は地域の中に
その扉は学校や職場の中に
その扉は家庭の中に
その扉は私の中に
社会を変化させられるのは私達だ

遠藤 悠夏 (山形東高・1年)



審査員からのコメント

多様性の素晴らしさに触れた感動が素直に表れています。多様性の尊重は、偏見や差別のない社会の実現に不可欠です。一人一人のよさや個性を認め合い、理解し合う事が、これからの社会を創るうえでとても重要であるという思いに共感できました。

武田喜好 審査員

入選

自分のわかること、
できることを
男女関係なく
教え合い、助け合う、
力を出し合って
感謝を伝え合う

齋藤 弥那 (第六中・3年)

入選

キッチンに並んで調理をする
父と母
増える会話と減る負担

高橋 千奈 (第七中・2年)

入選

赤ちゃんを産むことはできないけれど、
お世話ができる。
お乳を飲ませることはできないけれど、
ご飯を食べさせることはできる。
パパも育児をする
家族みんなが笑顔になる。

佐藤 玄宜 (山形聾高等部・3年)

入選

家事する父と介護する母。
家族を認知できない祖母がいて
「苦しい時こそ支え合いが大切。」
母の言葉が心に響く。

秋場 優花 (山形商業高・3年)

入選

朝の食器洗いはお母さん
夜の食器洗いはお父さん
服を干すのはお母さん
服を洗うのはお父さん
「ありがとう」の言葉があふれる私の家
家事は家族のきずなを作る
素敵な仕事だと思ふ。

川田 莉愛 (第七中・2年)

入選

制服のズボンってかっこいい
女の子がはくズボンってかっこいい
好きな物をまっすぐにすきだと
いえる人かっこいい。

前田 野乃華 (第七中・2年)

入選

リモートで父も家事をするようになった。
母の負担も減った。
コロナは大変なこともあったけど、
「当たり前」を壊してくれた。
これからはもっともつと男と女の壁を
壊していこう。禍を幸に変える。
これはきつといい機会だと思ふ。

石山 悠 (山形東高・1年)

入選

父が私を保育園まで送ってくれて
母が私を迎えにくる
母が作ってくれた夕飯を食べた後は
父が後片付けをしてくれていた
小さな頃の私の記憶は
今の私の理想の夫婦像

鈴木 望愛 (山形商業高・3年)

入選

家事半分子育て半分
介護半分でも幸せは二倍
そんな家庭がいいと思ふ

佐藤 駿 (第八中・3年)

入選

「彼氏できた？」じゃなくて
「恋人できた？」にしよう
同性でも異性でも
とても大切な人だから

塚野 雅千 (山形商業高・2年)



佳作

学校という小さな場所
男女の仲を越えて
大きくはばたく
自分と君が協力すれば
もっと遠くへ飛べるはず

渡邊 隼 (第一中・3年)

佳作

「女だから…」「男だから…」
性別で役割や仕事を決められる
のではなく、自らの意志、個人としての
尊敬によって活躍できる社会を
私達で創りませんか？

佐竹 伊莉明 (第七中・2年)

佳作

服やくつの色で、性別を区別するのはどうだろう？
私がお兄ちゃんのおさがりで
黄緑や青の服を着ていたよ。
色だけで性別は分らないよね。

堀 珠代 (蔵王第一中・3年)

佳作

「僕が仕事休めるよ」
子育てですぐに言える
関係性すてきなね

庄子 理花 (第三中・3年)

佳作

男とか女とかではなく
国や地域に関係なく
一人一人の人格で人を評価する
世の中になりますように

奥山 航成 (第十中・3年)

佳作

母の字で書かれた
父の名前の保護者サイン
小さな所に意識の差が
まだ残ったままです。

近岡 優希 (山形東高・1年)

佳作

休みの日には家事。
仕事の日は働く。
大変なのに父と母どちらも
笑顔で「ありがとう」と言っている。
感謝し、協力し合うことは
素敵で、すごいことだと思う。

笹原 鈴寿 (第七中・1年)

佳作

スカートもズボンも男女関係なく
共におしゃれして輝けるファッションを
楽しもう

鐘水 慈 (高橋中・2年)

